

## 「自分を大切に・人を大切に・ものを大切に・自然を大切に」 を合言葉に、エコ委員会が主導して みんなで取り組むエコ・スクール活動

エコスクール活動に取り組んで 16年目。学校ビオトープを活用しながら、児童会エコ委員会のメンバーを中心として児童がアイデアを出し合っている活動に、家庭・地域・地元企業と連携した学習活動を重ね、共に学べる環境学習を展開した。

### 1 学校の概要

油日小学校は、滋賀県の南東部の鈴鹿山脈の麓にあり、油日岳を源流とする杣川が学校近くを流れている。2000年の3月に完成した学校ビオトープも、今では木々が大きく育ち、カエル、メダカ、ドジョウ、ドンコ、タニシ、カワニナなど多くの生物が観察できる場になった。また、校庭にも数十種の木々が育ち、よい活動場所となっている。

### 2 活動の実際

#### (1) エコ委員会の取り組み

##### ア. ゴミゼロ作戦

子どもたちのゴミをなくしたいという思いを具現化する活動「ごみゼロ作戦」は、5月30日の「ごみゼロの日」に向けてエコ委員会から呼びかけて取り組んだ。事前の説明は、エコ委員会のメンバーが集団下校時の集会で行った。当日は教室のゴミ箱に封をし、各自が広告で作った紙袋にその日の自分のゴミを入れた。一日の終わりの学級活動で、ゴミを分類し、減らせるゴミはないかなどを話し合っただけを校内に掲示した。子どもたちが無駄なゴミについて再認識する機会になった。

##### イ. 油日小「エコ忍ジャー参上！」の啓発劇



「ごみゼロの日」の説明に加えて、環境運動の

啓発を盛り込んだ創作劇をしているが、今年はビオトープに薬草園ができたことの価値を全校に知らそうと「くすりの町甲賀町と薬草と忍者の関係」を考え披露した。なぜ「くすりの町甲賀町」なのか、なぜ薬会社が多いのか、なぜ薬草に注目なのかを「エコ忍ジャー」（ゆるキャラ「エコ忍ジャー」の忍者版）を登場させて楽しく知らせた。

##### ウ. 「エコ新聞」と「ミニ水族館」

「エコ新聞」は、エコ委員会によるビオトープ便りである。児童昇降口のコーナーに掲示し、内容も、子ども自身が興味のある生き物紹介や開花情報、さらに果実の食べ頃情報などを、写真やクイズを交えて紹介した。

「ミニ水族館」では、ビオトープや地域の川に生息する魚を紹介している。1階の廊下に水槽を並べて生き物を飼育展示しているが、魚に詳しい委員会のメンバーが世話をした。水槽の下には、説明書を作って貼り、個体の紹介もした。また、マグネット版の校区地図の上に生息する魚の種を貼って分布図にし、魚を中心とする地域の自然の状態を紹介している。

##### エ. ザリガニの駆除作業

エコ委員会では、ビオトープの池に地域固有の水草であるガガブタやアサザを取り戻そうと水草の生育しやすい環境づくりを探ってきた。大量に発生しているザリガニが水草を食べてしまうことがわかり本格駆除に乗り出して4年、成果は大きい完全駆除は難しい。しかしアサザが少しずつ葉を広げつつある。毎朝もんどりをしかけてザリガニを捕まえたが、そのわなの中にはザリガニ以外のさまざまな生き物も捕獲され、子どもたちにとっては毎日楽しみながらの活動となった。

## オ. 秋の自然と遊ぼう会

10月下旬の昼休みに、エコ委員会が中心となりワークショップ形式で行う活動である。「葉っぱマンをさがせ！」は、木や草むらに隠れる「葉っぱマン」を見つけて、ネイチャークイズに答えて楽しんだ。また「どんぐり広場」「ザリガニつり」など子どもたちのアイデアでゲームを展開した。



### (2) 環境フェスティバル 10月10日(土)

この行事は、学校で取り組んでいる環境教育を、家庭や地域に広く紹介するために、親子で学ぶ場として全校をあげて行っている活動である。

内容は学年ごとに、次の活動を行った。

- ・1年 アサガオのつるのリースづくり
- ・2年 ひつつきむしの絵、虫クイズ
- ・3年 池の生き物観察と飯盒炊さん(防災)
- ・4年 丸太切り体験 木切れでクラフト
- ・5年 水中の微生物観察、ヨシ笛づくり
- ・6年 杉川源流見学と油日岳登山

地元森林組合や水口こども森の学芸員など地域の方々からの幅広い協力を得て、専門的な指導も受けることができた。実施後の保護者アンケートでは、保護者自身参加してよかった、もっと一緒に体験したいという声が多く、この行事が親子で話題を共有できる機会になっていると感じた。

### (3) エコ・スクール支援委員会の取り組み



環境フェスティバルを支えるもう一つの重要な組織が「エコ・スクール支援委員会」である。この組織はPTAの中の専門機関として位置づけられている。保護者でもある委員には、計画から運

営まで自分の興味関心を活かしながら関わっていただいた。中でも「ひつつきむしの絵」と「飯盒炊さん」のショップでは、支援委員自身がフリップを作成し、活用してプレゼンを行った。実施後の総括会議では、委員から活動をよりよいものにするための展望が熱く語られ、次年度に向けての課題提供の場になった。環境教育の広がりとしてよいモデルになっている。

### (4) ハナノキ学習やグリーンカーテン

生活科や総合的な学習の時間「ハナノキ学習」でも3年の薬草博士など、ビオトープを中心として学習を展開している。また、夏場の節電対策に今年も校舎南側にグリーンカーテンを栽培した。

### (5) 地域や地元企業との連携「油日小学校薬草園」

「くすりのまち甲賀町」のビオトープとして、地元企業シオノギの油日薬草園の指導と協力を得ながら、地域種の薬草を栽培した。今年は、油日神社由来のゴマ4種も植えた。

まずは、3年生が薬草学習の一環としてアイ染めに挑戦。朝摘みした生葉を使い、薬科大学の先生の指導のもと、色の変化に感動しながらたたき染めと絞りを加えた青汁染めに取り組んだ。

また6年生は、家庭科の「お世話になった人へのプレゼント」の布材料として紫根染めをした。



裁縫に適した生地(厚めの木綿)に染め付ける方法を環境部と企業専門家で相談し試行した。

ベニバナはドライフラワーにして、1年の朝顔リースの飾りに使用、イブキジャコウソウは、乾燥させポプリにし、環境フェスティバルのお土産として持ち帰ってもらった。

また、地元滝地区の「ササユリの会」より、バイオで育てた苗を分けてもらい、ビオトープに滝地区の子どもたちが自分たちで植え付けをした。

学校名	甲賀市立油日小学校
住所	甲賀市甲賀町上野1322
電話番号	0748-88-2079
E-mail	koka30102032@city.koka.lg.jp